

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第 124 号 会 報 1989年 2月15日

目 次

I	学会役員投票結果報告	1
II	会長就任挨拶	2
III	運営委員役割	2
IV	第85会総会ならびに講演会開催のお知らせ	3
V	田中館賞授賞者選考について	6
VI	新入会員	6
VII	若手の会より・夏の学校について	6
VIII	寄稿 「萩田(吉田)セキ子さんの思い出」	7
IX	訃報	7

I 学会役員投票結果報告

昭和63年12月に行われた選挙の結果、第15期役員は次の方々に決まりました。

会長 行武 毅 (東大震研) 57票
 (次点 西田 篤弘(宇宙研) 27票)
 (投票総数 186票、有効票数 172票)

評議員 (10名)

安川 克己 (神大理)	128票
平澤 威男 (極地研)	127票
恩藤 忠典 (通総研)	120票
森 覚 (信州大理)	107票
広岡 公夫 (富山大理)	102票
大家 寛 (東北大理)	84票
西田 篤弘 (宇宙研)	77票
加藤 進 (京大超高層)	72票
小嶋 稔 (東大理)	70票
木村 磐根 (京大工)	(前会長)
(次点)	
松浦 延夫 (京大超高層)	59票
(投票総数 1860票、有効票数 1650票)	

運営委員 (14名)

浜野 洋三 (東大震研)	136票
本蔵 義守 (東工大理)	130票
乙藤 洋一郎 (神大理)	127票
深尾 昌一郎 (京大超高層)	125票
寺沢 敏夫 (京大理)	121票
鳥居 雅之 (京大理)	121票
福西 浩 (東北大理)	120票
丸橋 克英 (通総研)	116票
小山 孝一郎 (宇宙研)	113票
佐藤 夏雄 (極地研)	110票
林 幹治 (東大理)	106票
近藤 豊 (空電研)	103票
西谷 忠師 (秋田大)	102票
西田 泰典 (北大理)	88票
(次点)	
長野 勇 (金沢大工)	78票
(投票総数 2576票、有効票数 2255票)	

II 会長就任挨拶

行武 毅

この度は思いがけなく会長に選出されました。学会の名称が改められて、はやくも二期目になります。木村磐根前会長はじめ第14期役員は、新しい学会名にふさわしい諸会則の整備や財政の充実に力を注がれ、今後の学会運営の基礎を固められました。大きな黒字財政で今期に引き継がせて頂きましたが、このようなことは学会の歴史始まって以来のことではないかと考えます。AGUとわが国諸学会との共催となる Western Pacific Geophysical Meeting 開催など新しいタイプの学会活動にも積極的に取り組んでこられました。これらの精力的かつ意欲的な活動に対して心から敬服するとともに、また大いに感謝している次第です。

最近の地球科学はひとつの転機を迎えているような感じがします。太陽・惑星間空間の研究分野では、太陽・地球系のエネルギーの流れを究めようとするSTEP計画 (Solar-Terrestrial Energy Program) がまもなく始まろうとしています。固体地球科学の分野では、プレートテクトニクスが完成期を迎え、新たに地球核・下部マントルを対象とした研究 (SEDI: Study of the Earth's Deep Interior) が大きな注目を集めています。これらはいずれも個々の分野で進められてきた研究を大きく統合する必要がある研究課題だと思います。このような学問的要請に応じて、それぞれの研究者の研究活動が一層円滑に進展するようには、これまでの学会の枠をこえた協力体制が必要になってきているように思われます。前期の委員会では「学会連合」問題の推進に大きな努力を払ってこられました。なかなか難しい問題ではありますが、前期で蒔かれた種子を大事に育ててゆきたいと考えます。

さいわい今期も経験豊かで有能な役員の方々にめぐまれています。これらの方々と一緒に、会員の皆様のご協力を得て、これからの研究の進展にお役にたちたいと思います。

III 運営委員役割

新運営委員の役割分担を次のように決めました。

総務	浜野
庶務	林
会計	佐藤*、丸橋
JGG	福西*、本蔵
渉外	本蔵*、福西、浜野
広報	小山*、西田
プログラム	近藤*、寺沢、鳥居*、乙藤
大会	深尾、西田、丸橋、乙藤
名簿	西谷

*印は 責任者

IV 第85会総会ならびに講演会開催のお知らせ

文部省宇宙科学研究所のお世話になり下記の通り開催されます。

1. 期 間 平成元年5月10日(水)～12日(金)
2. 会 場 国民生活センター
3. 講演申込及び予稿原稿送り先

地球内部関係は

〒606 京都市左京区北白川追分町

京都大学 理学部地質学鉱物学教室

鳥居 雅之 宛

地球外部関係は(惑星・隕石・太陽系を含む)

〒442 豊川市穂の原3-13

名古屋大学 空電研究所

近藤 豊 宛

締切り 3月20日(月) 必着

予稿原稿は、同封用紙に黒インまたはボールペンで丁寧にお書き下さい。

用紙がさらに必要な場合は、学会事務センター宛に直接ご請求下さい。

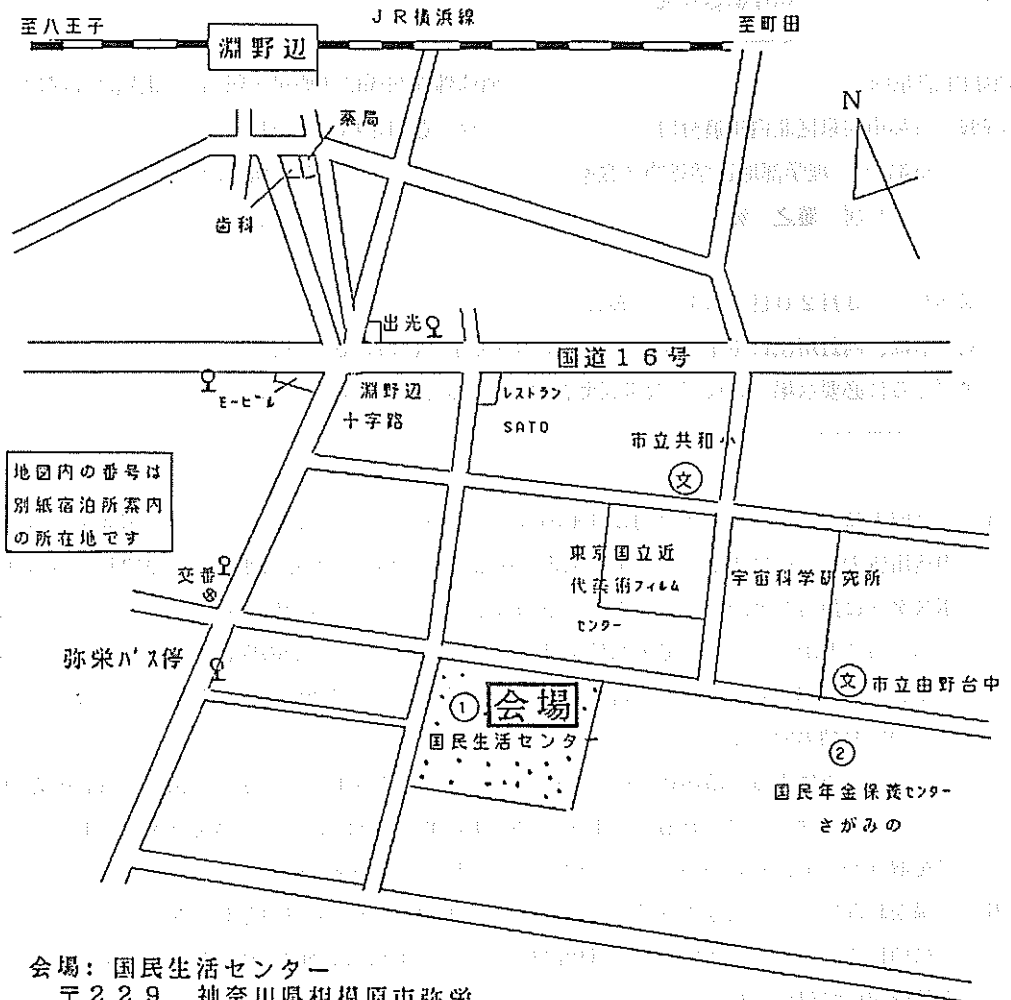
4. 今回も特に分野を定めずに約50編の論文発表をポスターで行う予定です。ポスター希望者は申込用紙の右上欄に「ポスター」と朱書きをして下さい。但し口頭発表を希望しておられてもポスターに廻ることがありますので、予め御了承下さい。今回は全ポスター論文を学会期間中展示することができますので入れ替えは行いません。口頭発表の場合はプログラム編成上関連セッションがバラレルになる場合もありますがポスターの場合にはバラレルセッションを行いませんのでお勧めできます。
5. 非会員のみによる講演申込みは受け付けませんのでご注意下さい。なお、論文著者名の先頭(ファースト・オーサー)になれるのは1人1編限りです。ほぼ同じ内容の話をファースト・オーサーだけを取りかえて、複数の論文として申し込むことはおやめ下さい。
6. 講演時間は1講演当り15分(講演12分、質疑応答3分)以内とします。
7. 締切日を厳守して下さい。締切日以降に到着した申込は自動的に却下します。電話による申込や遅延依頼は受け付けません。
8. 田中館賞候補者推薦および総会議題の申込みは3月30日(木)までに会長宛書面で御提示下さい。

送り先 〒113 文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所 行武 毅 宛

9. 学会終了後、5月13日(土)10-17時に宇宙科学研究所A棟2階会議室に於て「ダイナモシンポジウム」が開かれます。内容、講演者等に関しては学会予稿に掲載される予定です。連絡先・世話人(東海大学開発技術研究所 網川会員 Tel.0463-58-1211 内線5309)。

10. 第85回総会ならびに講演会の会場案内

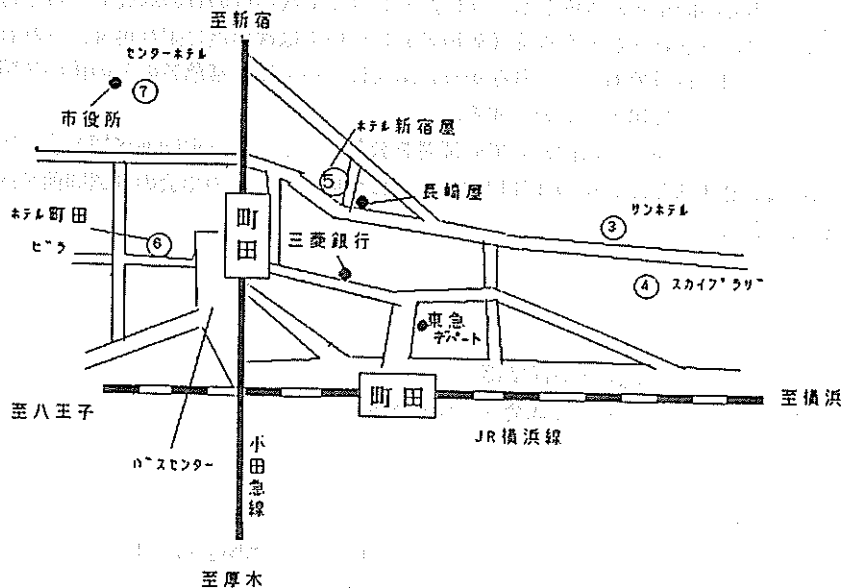


会場：国民生活センター
〒229 神奈川県相模原市弥栄
3-1-1
TEL 0427-58-3161

会場までの交通

1. JR横浜線 淵野辺駅 南口バスターミナルより
 - 1 番のりばの全てのバス
 - 2 番のりばの(淵32)または(淵58)のバス
 バス5分、「弥栄」下車、徒歩10分
2. 小田急線 相模大野駅 西口バスターミナルより
 - 4 番のりばの全てのバス
 バス20分、「淵野辺十字路」下車、徒歩15分

注：バスはともに約10分おきにあります。
駐車台数に限りがありますので車での御来場は自粛して下さい。



宇宙研近郊宿泊案内 (シングル料金)

No. (地図参照)	名前	料金	TEL (0427)	備考
1	国民生活センター (会場内、定70名)	¥2,900 食別予約制		※(宇宙研)
2	国民年金健康保険センター さがみの (定70名)	¥4,500-5,200 2食付き	52-0291	
3	サン・ホテル JR町田東口4分	¥6,800 予約割引	24-0708	※(宇宙研)
4	ホテル・スカイプラザ JR町田東口3分	¥6,230	26-0031	
5	ホテル・新宿屋 JR町田東口5分	¥6,900	22-3112	
6	ホテル・町田ヴィラ JR町田東口5分	¥6,800	24-0840	
7	センター・ホテル 町田より歩16分バス10分	¥6,000	59-0271	
	橋本シティホテル 橋本駅より歩3分	¥6,000-6,200	74-8100	
	グリーン・ホテル 北里大向い	¥5,000 予約割引	49-8181	※(宇宙研)
	山田屋 相模原駅より歩2分	¥4,500	52-3017	
	松蔭園 相模原駅より歩3分	¥4,000-4,500	54-5500	

※の申込については
直接 宇宙研・柳沢会員へ
郵送:
〒229 相模原市山野台3-1-1
FAX: 0427-59-4237
Tel: 0427-51-3911

国民生活センター宿泊申込は、3月1日より受け付けます。

V 田中館賞授賞者選考について

去る12月19日臨時の評議委員会が開かれ、これまで懸案となっていた田中館賞授賞者選考方法について審議の結果今春以降下記のようにすることになりましたのでご報告致します。

1. 田中館賞授賞者数は当分の間年4件以内とし、秋に選考を終えて次年度の春の総会で授賞を行う。
2. 推薦されて選考の結果採択されなかった論文（候補者）については次年度に限り再推薦されれば選考の対象とする。但し2回の選考でも採択されなかった論文については非推薦者のその後の業績により改めて新規の推薦を受けることは出来るものとする。
3. 今年春季については授賞者数を2件以内として候補者を公募し（総会の6週間前〆切）春季総会で授賞を行う。今秋は授賞をせず来年度春季の4件以内の授賞については今秋の総会の6週間前を〆切として候補者推薦の公募を行う。

VI 新入会員

学生会員	荻原 洋	東海大学海洋学部
賛助会員	林 宏三	シャープ株式会社 技術本部

学会会員数（1988年12月現在）

正会員	学生会員	名誉会員	賛助会員	外国会員
519	67	6	20 (34口)	52

VII 若手の会より・夏の学校について

地球電磁気・地球惑星圏学会若手の会では、昨年は8月7, 8, 9日の3日間、河口湖畔において夏の学校を開催いたしました。なお、会場には、極地研究所のご好意により極地研河口湖研修施設を利用させていただきました。この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

昨年の夏の学校には全国から30名の方々が集まり、皆様のお力添えもあって盛会の裡に無事終えることができました。講師には、京都産業大学より上出洋介先生、名古屋大学空電研より荻野竜樹先生、名古屋大学水圏研より岩坂泰信先生、極地研より藤井良一先生、東京大学より岩上直幹先生において願いました。そして、全体的な視野に立って学問・研究上の諸問題・将来像を議論するという主旨のもとに、研究態度のあり方、シミュレーションの役割、オゾンホール、磁気圏・電離圏結合、温室効果などの話題についてご講演いただき、若手の者を交えて活発な議論がなされました。現在研究の第一線に立たれている先生方から、ご自身の研究の歴史、今後の方針・計画についてお話を伺うことができたことは若手の者にとって大変励みとなりました。

来年度より事務局が京都大学に移りますが、今年も若手の会夏の学校を開催し、より多くの先生方、若手の皆さんをお招きして、互いに意見を述べ討議を交わし合う場にしていきたいと思っております。今後の会員の皆様のご御意見・御指導を切にお願い申し上げます。

東京大学理学部附属地球物理研究施設
若手の会事務局（代表 河野英昭）
TEL 03-812-2111（内線）4581

Ⅷ 寄稿 「萩田（吉田）セキ子さんの思い出」

赤祖父 俊一（アラスカ大学地球物理研究所）

私が最初に萩田セキ子さんをお見掛けしたのは、私が東北大学の大学院の学生時代であったと思う。「お見掛けした」と云う理由は、当時、日本電離層委員会という素晴らしい研究会が隔月あり、現在の太陽一地球系物理学の分野全般にわたって活発な研究発表が行なわれ、我々若い研究者にとって良い刺激になった。当時、萩田さんは名古屋大学の宇宙線研究グループの一人として活躍され、何回か講演をされていたのを拝聴した様に思う。

私が萩田さんに個人的にお目にかかったのは、1959年から1960年の冬、アイオワ大学にバン・アレン帯の発見者、バン・アレン教授を訪れた時のことであった。寒い、しかもひどい吹雪の日であった。萩田さんは小さな研究室の一つで、ソロバンを使って何か計算をされていた。勿論お会いするまでは、彼女がアイオワで仕事をされていることは知らなかった。話をお聞きしたところ、バン・アレン帯内の地球磁場をその球函数の定数から計算中とのことであった。バン・アレン教授が地球磁場を簡単に双極磁場と仮定して、高エネルギー粒子の分布を説明しようとしていたが、ばらつきが多くて困っておいでであった。そこで萩田さんは、実際に近い地球磁場を使うことを考えられ、粒子の分布を一挙に明瞭なものにした。今の若い人達には、ソロバンを使って地球磁場の計算をすることなど、とても考えられないことではないか。彼女の研究は、他の研究者達に受け継がれ、現在でも良く使われる“L・シェル”の概念は彼女の研究から出発したと云って良い。そのお会いした夜、彼女は鳥のご馳走をして下さった。私の様に料理に無頓着な者が30年前の料理の品目を思い出せるのは不思議である。

それが御縁になり、1965年から1973年の8年間、毎夏アラスカで協同研究をすることになった。数えてみると九つの論文を共著で発表した。どれも思い出のあるものである。太陽面爆発と地磁気嵐の関係の研究は大変忍耐を要する仕事であったが、磁気嵐の強度が太陽面爆発の中心子午線からの経度によることを突き止めた。宇宙科学研究所の大林辰蔵教授が我々のコンビを“鬼と金棒”と表現されたと、彼女が楽しそうに笑っておいでになったことを思い出す。私は宇宙線の研究を彼女の仕事を手伝わせていただきながら勉強したと云った方が正確である。磁気嵐中の宇宙線強度の変化が南北の極地で対象でないことを発見した。

萩田さんは1970年頃から日本に留学している東南アジアからの学生を世話することを考えはじめた様である。理由をお聞きしたことがあったが、「アイオワでアメリカ人から大変世話になった事が身にしみたので……」とおっしゃっておいでであった。その後忙しさに紛れ、すっかり失礼していた。時々、新聞や「婦人の友」などの雑誌で、その方面の御活躍を拝察してはいたが。

シャイな人ではあったが、自分の信念にしたがって強く生きた人であった。

謹んで御冥福をお祈りしながら筆をおく次第である。

Ⅸ 訃報

安原 通博 会員（京都教育大学教授）は去る平成元年1月20日脳底動脈閉塞症のため逝去されました。享年61歳。

同氏は昭和28年3月京都大学理学部地球物理学科を卒業され、その後理学部副手、ついで助手に採用され、昭和44年4月京都教育大学助教授に転任、昭和49年4月教授に昇任され、その間35年にわたって大学教育と研究の発展、大学運営に貢献されました。そのほか京都大学教養部でも多年非常勤講師として、後進の指導にあたっておられました。昭和43年3月には地磁気日変化磁場の逐年変化の研究により京都大学理学博士の学位を取得され、その後シューマン共振現象に関する研究、成層圏大気電場の観測装置の開発研究に取り組んでおられました。

ここにつつしんで哀悼の意を表し、御冥福をお祈りします。

<<会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿、お待ちしております。>>

会長、総務、庶務までご連絡下さい。

会長 行武 毅 東京都文京区弥生1-1-2 東京大学地震研究所 03-816-3795

総務 浜野 洋三 同上 Fax 816-1159

庶務 林 幹治 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地球物理研究施設 03-815-8020

Fax 818-0745

地球電磁気・地球惑星圏学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

(財)日本学会事務センター内

電話 (03) 817-5801

FAX (03) 817-5800